

# りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙  
第265号  
25. **2** .24

表紙・P2

・豊共園産直50周年生産者懇談会の報告  
「豊共園産直活動50年の歴史をつないでいこう!」

P3

・活動報告 畑訪問／御牧ヶ原りんご農場訪問／りんごの会サークル  
・組合員紹介 ・職員紹介

P4

・計報 ・生産者紹介「株おとうふ工房いしかわ」  
・理事会報告 ・編集後記

## 豊共園産直活動50年の歴史をつないでいこう!

私たちが「よやく・る」で食べている「豊共園」の温州みかんは、エスコープ大阪産直第1号の消費材です。1974年に泉北生協(現 エスコープ大阪)と三共園(現 豊共園)の産直活動が始まってから2024年で50年が経ちました。

2025年1月28日(火)、和歌山県海南市下津町にある「協同の家・下津」にて、豊共園の生産者親子6名とエスコープ大阪の理事・職員8名が集まり、生産者懇談会を開催しました。高度経済成長、海外からの果物の輸入、バブル経済の崩壊など時代の変遷と共にみかん作りや産地コミュニティに関わるさまざまな課題と向き合いながら、豊共園とエスコープ大阪が共に歩んできた50年を振り返り、作り手と食べ手の思いを共有した生産者懇談会の様子を報告します。(聞き手:消費担当常務理事 山路 登葉)



豊共園

前山 弘枝さん

敏浩さん

梶本 都美子さん

元文さん

宮本 ちなむさん

善史さん

### 産直50年の歴史を振り返る

山路 産直活動を始めた頃の思いや組合員との思い出などを聞かせてください。

(以下、生産者は下のお名前でご記載させていただきます。)

弘枝 50年経ったことに驚きました。今も畑で働かせてもらっています。農薬の使用を少なくしているので、ジュース用みかんの量が増え、みかんを作り続けることが苦しくなってきました。今のような状況でどうしたらみかん作りを続けていけるのか若い人で考えてもらえたらと思います。

ちなむ 前身の泉北生協と出会った次の年に結婚しました。今も働いていると楽しいです。毎日やることのあるのは良いことです。気候が高温になってきてカメムシが発生したり、シカやイノシシが木の下の方のみかんを食べるようになってきました。

都美子 50年は長いようで短かったです。ほかの農園ではしていないことをやっていたのでプライドを持ってやってきました。

た。豊共園の園地には草が生えているので土地が肥えていて、甘いみかんになります。そのようなみかんを作れることがうれしいです。「おばあちゃんのみかんはウサギが食べる。他のみかんは食べない」と孫から聞き、友人からも「めっちゃめっちゃおいしい!」とメールをもらいました。生協が豊共園を育ててくれました。

弘枝 サビダニがついたみかんも引き取ってもらい助かりました。今期はみかんの皮にススが多く出たので、かなりの量をジュースにしました。みかんは柔らかいのでススを拭き取りにくく、傷むのも早いので出荷することが難しいです。

都美子 省農薬栽培を始めた頃は、周囲のみかん農家から「迷惑」などと言われました。不安はありましたが、私たちには組合員がついていました。生協からいろんなことを教えてもらい、一緒に開催したマーマレード講習会も楽しかったです。そのような経験から、愛媛県主催の世界的なジャムのコンテストに最近挑戦しました。今はみんなやることがあつてなかなか集まらず、今日久しぶりに集まりました。

ちなむ マーマレードは組合員の皆さんとの交流がなければ作ることがなかったと思います。私たちは、ただみかんを作っているだけではありませんでした。

敏浩 就農19年目になります。当時はしんどくなかったのですが、今は年齢的にもしんどくなってきました。父はもう農業をやっていないので母と自分だけでやっていくことが不安で、手探りの中やっています。手をかけていますが、温暖化や病虫害の影響で出荷が減っています。

善史 就農して26年目です。生協の活動が私にとって社会勉強の場となっています。みかんを作って伝えるだけではないこのような関係を次の世代につないでいけたらと思っています。

元文 就農して20年になります。就農当時はたくさん作ったみかんをどうするかと

いう課題がありました。今はどうやって作り続けるかが問題です。作り方を変えて他への出荷も考えたこともありましたが、軸をずらさずにやってきて良かったと思います。

### 取り組むべき課題を共に考える

山路 これからのみかん作りや産直活動についてはどのようにお考えですか。

都美子 隣の畑の人が灌水を急にやめてしまい、水やりが大変になりました。

元文 灌水作業も地域の生産者たちと協力しています。みかん作りは豊共園だけではやっていけないので、みかん農家の減少は問題です。市や県が補助金を支給するなど、どのようにみかん作りを継続させていくのか、地域としての課題です。高齢化などで農家は作りにくい畑から手放していきます。自分の畑が耕作放棄地になり管理されなくなると大問題です。「FROM FARM」の大谷さんの援農(2面参照)があつても状況の改善は難しいです。今シーズンのみかんは品質が良くないのに市場では値段が高い。作る側も値段が高くて喜ぶというより、「なぜ高くなるのか?」と戸惑っています。

敏浩 今のような状況では、後継者のこととはとても考えられません。援農してくれる人の確保も難しい状況で、本来なら毎年するべき剪定も2〜3年に1回になってしまっています。今年和歌山のみかんの価格が高騰しました。毎日食べるお米と違い、みかんは庶民の嗜好品です。高すぎたら売れません。温暖化で作物が作りにくくなり、「この値段で誰が買うのか?」と思うほど値段も上がっています。農家にとって不安や心配の種がつかまいません。

元文 ドローン講習会に行きましたが、みかん作りは手作業でないと難しい作業が多く導入は難しいと感じました。みかん栽培は省力化が一番難しいのではないのでしょうか。

弘枝 10月から3カ月間、毎日収穫すると疲れます。若くないとやっていけないと思うことがあります。

敏浩 摘果や収穫の作業を人に伝えることは難しいです。場所によって機械が使えるかどうかでも違ってきます。

善史 柑橘は機械化が難しいので、法人化しているところは少ないです。援農をお願いしても新しく来た人に毎回農作業を教えるのは難しいです。

敏浩 人を雇うとその人への給与のために畑を広げないといけません。生協への出荷は収穫と同時なので人手が必要です。「何月何日に来てください」ではなく、以前はこの辺りに定年退職をした人がたくさんいたので、天候など生産現場の状況に柔軟に対応できていました。しかし、今は高齢化の影響で人のやりくりが難しくなりました。ハローワークの紹介で来てくれる人は毎年変わるもので、一から作業を教えることになります。

善史 みかん作りをやめてしまう人が増えた今のような状況を逆にチャンスと考えるみかん栽培を始める人もいます。

敏浩 この辺りでも見たことがない人が最近みかんを作っています。

## 作り手と食べ手が話し合うことをこれから大切にしよう！

山路 今日懇談会はいかがでしたか。敏浩 こうやって生産者と組合員が集まるのが少なくなってきましたが、顔を合わせて話をすることはやはり大切なこと

だと改めて思いました。善史 みかん作りは豊共園だけで成り立つものではなく、一言で感謝しありません。

元文 「これからも一緒にやっていきましょう」と再確認する機会になったと思います。母も今日は安心を持ち帰れたのではないかと思います。次の世代に伝えるためにも、できることを明るく実践していききたいと思っています。

都美子 みかん作りを息子に引継ぎ、自分は「行ってきました」と大好きな野菜作りをしに畑に行けるのがあります。今後とも豊共園をよろしく願います。

ちなむ みかんが落ち、キウイが落ち、デコポンは真っ黒でがっかりで、今年は特に収穫量が減りました。この先も作っていきけるのかと思いますが、組合員の皆さんに引き継いでもらっている



ということを感じられてうれしいです。50年続いていることは大きいと思います。いろんなことを勉強させてもらい、いきいきできてうれしいし、楽しいです。

弘枝 この年になって出ていくのが恥ずかしいと思います。今日の参加を一度はお断りしました。あと何年やっていけるのかわかりませんが、健康に気をつけてがんばります。

山路 生産者が安心して作り続けられるよう、これからも対話を大切にしながらいきいきの安全・安心を次の世代につないでいききたいと思っています。

年度	豊共園 産直 50年 主な活動のあゆみ
1974	温州みかんの産直開始。
1976	全量消費取り組み開始。 (価格:10kg 1,380円、消費量140t)
1983	生産者より交流施設(「協同の家・下津」)の建設提案。 (価格:10kg 1,500円)
1985	「三共園」に北東さんが加入して「豊共園」に改名。
1986	「協同の家・下津」完成。
1988	サビダニ被害発生。
1991	北東さん脱退。5kg規格の供給開始。 (消費量ピーク:298t)
1993	「宅置きしない宣言」 宅置き:この頃まで、みかんを食べ切るために組合員が注文していなくてもみかんを届けていた。
1994	2kg、5kg、10kgとカタログでの自由注文を開始。新加入者にサンプルを配布。(約束量160t)
1995	全量消費から約束量を消費する取り組みに変更。
1999	宮本善史さん就農。
2002	生活協同組合連合会「きらり」設立。消費約束量160tを解除。
2004	梶本元文さん就農。
2005	前山敏弘さん就農。
2006	「協同の家・下津」建設20周年で生産者よりはっさくの木をいただき、エスコープ大阪に植樹。
2009	消費量「きらり」全体で160t、エスコープ大阪で83.9t。
2010	エスコープ大阪が生活クラブ連合会に加盟。
2017	生活クラブ関西6生協で温州みかんを関西青果政策の統一推進材「よやくる」みかんとして取り扱い開始。 (生産者:豊共園、アイワ研究会、植田寛さん、仲田尚志さん)
2018	7月の大雨に続く9月の大型台風で前山さんの園地が被害を受け一部園地を手放した。生産量は半減。
2022	「よやくる」みかんは豊共園とアイワ研究会2団体で供給となった。下津町で温州みかんの援農をする人をコーディネートやサポートをしている「FROM FARM」の大谷幸司さんに協力。11月と12月の2カ月間「協同の家・下津」を援農者の宿泊施設として貸与し、援農募集チラシの全戸配布を開始。
2023	カメムシの大量発生で、年明けに配達を予定していた「よやくる」みかんの供給中止。
2024	エスコープ大阪「気候危機フォーラム」に梶本元文さんがパネラーで登壇。
2025	「協同の家・下津」にて豊共園産直50周年生産者懇談会を開催。

### 午後の交流会

### 生産者と組合員の思いの共有

最後に組合員が作った豊共園のみかん・レモン・はっさくのケーキを召し上がってもらいながら、生産者と組合員の思いの共有をしました。1月にエスコープ大阪で募集した組合員と職員の「ありがとうのメッセージ」を生産者にお渡ししました。生産者の皆さんは「ありがとうございます。やっぱり、おいしいと言ってもらえることが一番うれしい。これからもがんばります。」と喜んでおられました。



大阪市南・中河内地域

畑訪問

2024年12月7日(土)
菜食ファーム生産者
大町さんの畑
(堺市中区)

大阪市南・中河内地域理事
小山田 さつき

私たちが食べている
野菜の生産者に会える日



のお話を
いただきました。
もうすぐ90歳
になるとは
思えない口
調でした。

お話の後
はいよいよ
収穫です。畝にびつしりとカブが植
わっており、土から白い大きなカブが
見えていました。スーパードでは見たこ
とのない大きなカブです。葉っぱも
しっかりと立っていてスープに入れたらお
いしそうです。茎の下のあたりを手で
しっかりと握り引き抜くとあっさりカ
ブは抜けました。子どもが力でも十
分抜けました。子どもがどんどん抜く
のを大人が必死に止める様子が楽し
かったです。住宅地からさほど離れて
いない所で育った野菜は、手元に届く
まで新鮮で栄養がたっぷりです。
2025年度も自分たちの身体を作
る食べ物ができるように育っているのか
をたくさんの組合員の方たちと一緒に
見に行きたいと思っています。

『旬菜セット』の野菜を作っ
ている「菜食ファーム」生産者の
大町さんの畑を訪問しました。
泉北高速鉄道「深井駅」に集合
後、生協車に乗り込み、皆でワ
クワクしながら「どんな畑だろうか、
生産者はどんな人だろう」などとお
しゃべりしているうちに畑に到着。
私がエスコープ大阪に加入してすぐの
3年前、大町さんの畑を訪問したこと
があります。その頃とお変わりなく
とてもお元気そうであれしくなりま
した。

畑を見回すと、カブやホウレンソウ
が長い列を成して縦にまっすぐ並ん
でいて青々ととても立派でした。私た
ちが食べている野菜がここで出来てい
ると確認した組合員の方たちは目を
キラキラさせながら一同に「うわあ
〜!!」と感動して声をあげました。大
町さんに昔の組合員との交流のこと
や野菜作りでの苦労話などたくさん

りんごの会
サークル
風来里(ふらり)
(堺市南区)

りんごの会サークル
代表 露 幸子



私たちは、生協の発展
のために草創期から尽力
された故・吉井玲子さん
が寄贈された「風来里」に集まり、吉井
さんの親友であった倫子さんを先生
に折り紙を楽しんでいます。倫子先



みんなで過ごす楽しい時間

生は創作
折り紙展
で何度も
入賞され

ている方です。活動を
始めて、今年で丸14年に
なりました。サークル
の名前は先生のお名前
(倫子)を音読みして、りんごから「り
んごの会」としました。
もともとは吉井さんを中心に朗読

消費委員会

御牧ヶ原りんご
農場訪問

2024年11月2日(土)
~3日(日)
(長野県小諸市)

消費担当常務理事
山路 登葉

御牧ヶ原りんご農場で
交流しました!



御牧ヶ原りんご農場にて

量はかなり減ると
のことでした。
病気で傷んでい
たり、地面に落ちて
いるりんごを目の
当たりにして、参加
者は一様にショック
を受けました。夏
の暑い時期に草刈
りや摘果作業をし、
大切に育てたたく
さんのりんごを廃
棄することになる

現状を実際に見て、「今まで以上に感謝
して食べようと思いました」「傷のあ
るりんごが届くことがあったので、注
文をやめた時期がありました。りん
ごにはたくさんの病気があり、出荷で
きないものもたくさんあることが今回
わかり、これからは食べていこうと思
いました」などの声が上がりました。
生産現場の理解を深めることができた
有意義な産地訪問となりました。

2日目は園地に行きました。生産者
のお子さんも一緒に来て、りんご狩り
に使う機械を操作してくれました。長
野県が推奨し、御牧ヶ原りんご農場で
も早くから導入している「わい化栽培」
のりんごの木を初めて見る参加者もい
て、イメージしていたりんごの木と違
うことに驚かれました。
2024年の秋は果実が腐敗する
「炭疽病」や、葉がダメージを受けて栄
養が届かなくなる「かっぱん病」が園地
で広がり、御牧ヶ原りんご農場の収穫

※わい化栽培 コンパクトな樹形で多くの本数を植える栽培
様式

に折り紙を教えるボランティアもし
ていました。

会などをしていたのですが、メンバー
の「こんなことしたいわ」の一言から
このサークルが始まりました。うる
さいくらいにぎやかな中で、楽しく
折っています。季節ごとに違う作品、
立体的なバラや西洋人形のようなも
の、干支、春夏秋冬の行事や飾り物な
どこれまでたくさんのものを折って
きました。コロナ禍の前まではメン
バーが交替で堺市南区赤坂台にある
デイサービスに行き、利用者の方たち

毎回15名ほどのメンバーで、にぎや
かに折り紙を楽しんでいます。15名
もいると風来里はいっぱい、メン
バーを増やすことができない状況で
す。おしゃべりに夢中になるあまり
手が止まってしまふことも。いつも
お茶とおやつを用意して、みんなで楽
しい時間を過ごすことを大切にしてい
ます。

消費材の魅力を伝えたい!



森山 秀斗(27歳)
エスコープ大阪
在籍年数2年11ヵ月
[共同購入フロア 泉北支所]

私は泉北二ニュータウン地域
和泉市・泉南市を主に配達して
います。入協前は工具の営業
をしていました。
毎週組合員さんとお話しする
のを楽しみに配達をがんばって
おります。この仕事を選んだ
きっかけは、自宅前で配達して
いる姿を見て珍しい生協だなど
調べてみると食にこだわった生
協と知ったからです。
入協するまではおいしい、お

買い物へ行くのがつらくなっ
た祖母に豚肉を試食しても
らったら「おいしい!」と絶
賛、後に組合員となりました。
ひとりでも多くの方にエス
コープ大阪の魅力を伝えるこ
とができたらなと思います。
食は大変奥深く、これから
もっと勉強し組合員の皆さん
へ伝えられるようがんばりま
す!

歓声をあげて大喜び、出会えてよかった
米粉のロールケーキ

紹介します!!
うちの地域の
組合員さんです

朝山 眞央さん
[河内長野・大阪狭山地域]



ほかからかな、3歳と8ヵ月
のふたりの子育てに奮闘中
のママ。妊娠後子どもに安
心な物を食べたいと、イン
ターネットで調べてエス
コープ大阪に加入されまし
た。国産で食品添加物の使
用が少なく、安心できる食
物(消費材)の良さを実感す
るようになった頃、長男の晴
颯(はやて)君に小麦とくる
みのアレルギーがあること
がわかりました。あこがれ
ていたケーキも我慢。「子育
てひろば」で出会った組合員
の方から小麦アレルギー対
応の米粉のロールケーキが
あることを教えてもらって、

さっそく購入し、あまりのお
いしさに「わあ〜」と跳びあ
がってしまったそうです。
表示もしっかりと見ていて、
カタログには原材料がすべ
て書いてあるので助かるこ
とが言われています。
晴颯君が1歳3ヵ月の時
に地域二ユースを見て「子育
てひろば」に参加。子育てひ
ろばの会場に一步入るのに
勇気がいったけれど、2人目
の葉瑠(はる)ちゃんが生ま
れた今も参加されています。
子育てひろばでは大人の会
話ができるのがうれしいそ
うです。4月には職場復帰
されるので参加できなくな
りますが、消費材を多く利用
し、地域二ユースを見て、組
合員としてのつながりは、大
事にしていきたいと話され
ていました。
聞き手 沼田典子
(河内長野・大阪狭山地域理事)



第7回 理事会報告 <1月8日>

【11月度決算報告】

- 供給高 2億4,410万円(前年同月比112.6%)  
※配達日数は2日多い
- 組合員数 18,694名(前月比+46名)
- 一人当たりの出資金 93,199円

【12月の放射能検査結果】

12月は連合消費材597検体、関西消費材4検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①全体区、地域区の役員定数について
- ②役員推薦委員会の設置について
- ③日本生協連の生協役員賠償責任保険の加入申込

【協議事項】

- ①第7次中期計画福祉分野補正修正の決定
- ②2025年度エスコープ大阪の方針の決定
- ③生活クラブ連合会2024年度活動報告、2025年度活動方針事務局案の発送と単協意見集約
- ④2025年度機関会議日程
- ⑤「2025年度方針・活動計画を地域組合員で確認する会」の取り組みについて
- ⑥2025年度りっぷる紙面と年間掲載スケジュール
- ⑦エスコープ大阪まつり2024のまとめ
- ⑧エスコープ大阪まつり2025のすすめ方
- ⑨鶏卵の洗卵方法自主基準の改訂に関する単協質問・意見集約
- ⑩持続可能な生産について
- ⑪2025年度「生活クラブでんき」契約獲得目標とスタート集会、2025年度のエスコープ大阪の取り組み
- ⑫2024年度グリーンシステム活動の振り返り
- ⑬2025年GMナタネ自生調査の院内報告会
- ⑭見守りサポーターによる見守りの流れ・見守りケア報告書兼請求書(加入用紙)・エコロ制度ケア給付実績表について
- ⑮ピース八田西事業用借地権契約満了にともない再度事業用借地権契約締結について

【報告承認事項】

- ①『旬菜セット』実験取り組み「コールラビ」の規格について

編集後記

豊共園との産直50年の間に、生産の中心は親世代から息子世代に変わりましたが、交流の場などを通じて話し合い、学び合い、よい関係を築くことができました。このような関係を60年、70年と次の世代にもつなげていきたいと思いました。

(Y)

お悔やみ

エスコープ大阪二代目組合員理事長の東山和子さんが、1月23日にお亡くなりになりました。

第13回通常総代会にて理事長に就任し、1984～1993年度の10年間務められました。任期中には「ストックポイント」作りや「25人班」作りなどに尽力され、様々な生活スタイルの人が共同購入に参加できる仕組みづくりをすすめられました。「協同の家・下津」の建築にも関わられました。

エスコープ大阪設立20周年記念誌「はたち」に寄せられた東山さんのメッセージ(抜粋)です。

「新しい価値観に基づく社会を創りだそう、創らなければという気運の中で、創立二十周年を迎えました。この節目に何が言えるかということですが、まずはこの間の時代の変化を縦糸にして、その折々に組合員が織りなした様々な活動模様、その総体として泉北生協を語り継ぐことでしょう。」

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



故 東山 和子さん



生産者紹介

いっしょに創る未来

愛知県高浜市

(株)おとうふ工房いしかわ

取締役執行役員 上田 敏昭さん

営業本部 太田 紗佑里さん



上田さん

太田さん

『きららず揚げ』や『豆乳プリン』などを供給しています。

私たちは豆腐屋ですが、国産大豆を原料にすることで、日本の農業を応援したいと考えています。そこで、豆腐だけでなく、大豆をいろんな形で食べ

原料の大豆は、契約農家から調達しています。現在、年間約3千3百トンの大豆を使用しています。農家の皆さんの畑に足を運んで、大豆の様子を確認し、信頼関係を築いています。気候、災害によるリスクを避けるため愛知県内だけでなく、北海道や

北陸からも調達しています。豆腐屋という後継ぎがいなくて廃業してしまったということがよくありますが、私たちの会社では次の5代目も一緒に働いています。また、豆腐屋は男性社会と言われていますが、女性や若い人が活躍できる環境作りを心掛けており、女性社員が多いのも特長です。

供給している『きららず揚げしお』の塩は「(株)青い海」の焼き塩を使用しています。このように、近畿親生会の仲間とも原料を供給し合っています。また、本社が愛知県なので東海、首都圏を中心に交流会を開催していますが、大阪に営業部ができたので、今後はエスコープ大阪の組合員の皆さんとも交流会を開催できたらいいですね。

私たちは、以前から生産者と組合員が直接顔を合わせて議論し、一緒に消費材を作り、運動をすすめてきましたが、生協設立から50年以上経ち、世代変わりしている生産者も増えてきました。そこで、このコーナーでは次世代の生産者や「近畿親生会」の生産者に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

日本の農業を応援したい

(株)おとうふ工房いしかわは、明治時代より町の豆腐屋として豆腐の販売をしてきましたが、4代目の現社長が会社組織にして34年経ちました。生活クラブに消費材を供給して20年ほど経ちますが、現在、関西6生協には『きららず揚げ』や『豆乳プリン』

てほしいので、おからや豆乳など大豆由来の加工品の供給をおこなっています。社長がアイデアマシで、加工機材についても詳しいので、おからや豆乳を使ったデザートやドーナツ、パン、おからパウダーなども開発して販売しています。一般的に、おからは飼料などにも使われますが、食品廃棄物として処分されることも多いです。SDGsの観点からも、食品廃棄物を減らす取り組みにつながっています。

キリトリ

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き 265号(2025.2.24)

(ペンネームOK)

●地域名

●組合員コード

●お名前